

在宅で 生きる

vol. **17**

11月号

2015.11.1.

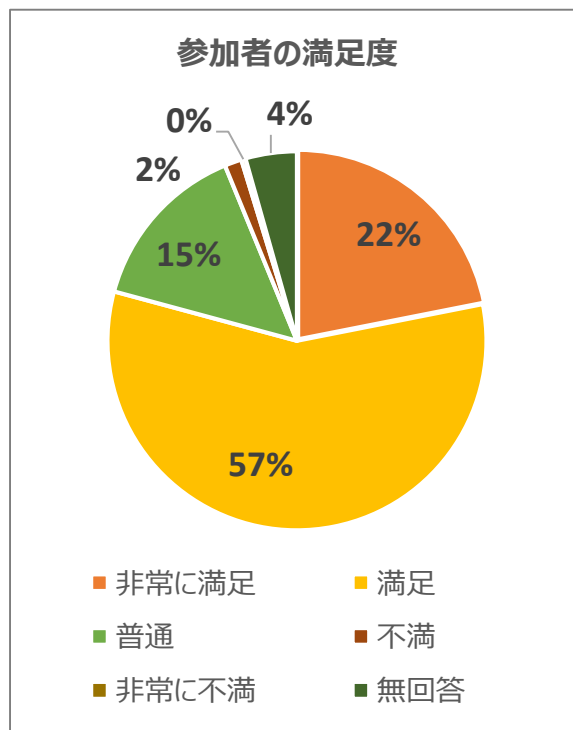
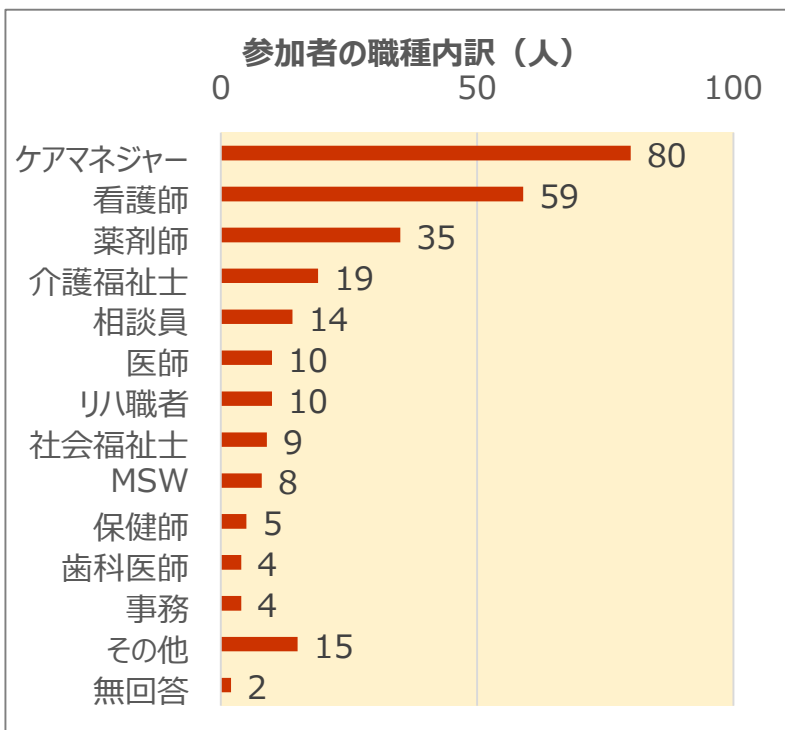
練馬区 地域医療担当部
地域医療課
医療連携担当係
TEL:03-5984-4673

特集

—在宅療養事例検討会・多職種交流会のご報告—

今年度も7月と9月に在宅療養に関する事例検討会・多職種交流会を開催しました。昨年同様、毎回130名を超える参加があり、大盛況となりました。今回は、第1回と第2回のアンケートの抜粋とそれぞれに参加した方々にご感想をお伺いしました。

【参加者アンケート（抜粋）】第1回・第2回



◆ 第1回在宅療養に関する事例検討会・多職種交流会（大泉地区）報告

ケアマネウイズだいこんの花 松崎 とも子

今回の事例検討会に参加して、私はまずパネリストの数の多さに驚きました。パネリストの皆様は多職種連携の重要性を認識し、実践されながらも、発表の内容からは、それぞれの立場からの客観的で謙虚な振り返りが聞かれ、皆様の努力と苦悩がひしひしと伝わってきました。

「関係者同士がもっと検討を重ねていれば、ご本人の望む生活にもう少し近づけることができたのではないか」と言う話が心に残りました。パネリストの多くが口にされていたのが、情報共有の難しさだったように思います。今回の事例では、利用者おひとりに13の関係機関が関わっており、身体的なことから生活に関することまでその情報量は膨大だったと話していました。それら情報のやり取りの難しさに、参加者の多くが共感したことでしょう。活用されている現場でのノートやメールに合わせて、この課題を解決する糸口としてパネリストが発表していたのは「情報連携基盤クラウド」（ICT）でした。私はその有効性を耳にすることはあっても実際に体験したことはありません。今回の事例検討会では、現場が抱える大きな課題と共に、今後ますます多様化が予想される在宅生活の現場で、多職種の関係者がより円滑に連携していくためには、新しいシステムも積極的に取り入れていく必要があることを提唱されていたように思います。次につながっていく良い研修会だったと思います。

◆ 第2回在宅療養に関する事例検討会・多職種交流会（光が丘地区）報告

祐ホームクリニック平和台 林伸宇

2015年9月10日、Coconeriホールに100名以上の医療・介護関係者が集まりました。検討会では、まず、光が丘地区では高齢化が団地で先行しているものの近隣の入院病床が少なく、在宅医療を支える医療機関も不足していることなどの講義がありました。次に、13年間に渡り若年認知症の奥様を在宅で介護し、最期は自宅で看取られた御主人と主治医、ケアマネージャーの講演がありました。主治医、ケアマネージャーの御講演の後、専門職としての支援の在り方について多職種でグループディスカッションをしました。「早期に介入するのがよい」「専門医とかかりつけ医の連携が大切だ」など活発な発表があり、いずれも重要と感じました。しかし、その後の御主人の御講演に最も大切なことを感じました。「そういうことは全部やっていた。ただ、自分たちの声を聞いてくれる人がいなかった。顔を見てきちんと向き合ってくれた医師に出会えたのは何年もたってからだった。どうか、患者や家族ときちんと向き合う専門職になってほしい」。会場全体が、はっとさせられるような、力強い言葉でした。そして、自分自身に向けられた激励と感じました。大勢の専門職の前で御自身の経験を話すという大変なことにもかかわらず「医療や介護の専門職の方たちの役に立つならば」と引き受けてくださった御主人に、参加者として改めて感謝を申し上げます。検討会終了後には軽食を交えての多職種交流会があり、関係者の皆様と顔を合わせて話し合える有意義な機会となりました。練馬区にこのような取り組みがあるのは素晴らしいことだと思います。今後もこのような取り組みに関わっていくとともに、患者さんが安心してその人らしい人生を送ることができるよう、24時間365日の在宅医療を通じてお役にたちたいと思います。